

公益財団法人 痛風・尿酸財団  
令和元年度事業報告書

## I. 概況

我が国の痛風・高尿酸血症患者数は約 100 万人、高尿酸血症患者は約 1,000 万人と推定されているが、生活環境の変化等も加わり更に増加し続けていると言われている。

7月に財団名を痛風・尿酸財団に変更致しました。痛風だけでなく痛風は発症していない高尿酸血症の人や尿酸が関連する様々な疾患の人も対象としている財団である事を示したいと考えたからである。

痛風・高尿酸血症の原因究明と治療レベルの向上の為、長年に亘り研究者への助成支援を続け、また医師に対する研修や一般の人々に対する痛風・高尿酸血症に関する啓発事業を通じて患者の減少を目指した活動を行っており、令和元年度もこの目的に向けて事業活動を行った。

また、近年痛風の要因でもある尿酸自体の研究に関する論文も多く発表され、尿酸が痛風や腎臓・心血管のみならずその他多くの疾患に関係していることが明らかになりつつあり新たな展開を示している。

更に、2月からの新型コロナウイルスの感染の広がりから医療分野の研究や開発そして治療に対する支援や助成の重要性が再認識され、支援事業の意義も大きくなってきており、今後とも積極的に実施してゆきたい。

事業を支える収入は経済の減速・消費税率引き上げの影響を受け、製薬業界などからの受取会費は減少したものの、有価証券受取利息などで補い、前年並みの 1,845 万円を維持できました。一方、事業費などの支出は助成金や研修会形式の見直しなどから 1,999 万円で終える事ができました。

この結果、今年度経常収支は 154 万円の赤字（前年比 123 万円減）となりましたが、保有有価証券運用損と保有債券期末評価損の合計 1,979 万円を計上した結果、総合収支は 2,133 万円の赤字となりました。

## II. 事業の概要

### 1. 研究助成事業

令和元年度は下記部門の対象者 14 名、総額 600 万円の助成を行った。

- ① 痛風・高尿酸血症に関する臨床的色彩又は基礎的色彩の濃い特色ある研究を対象とした「痛風・尿酸財団賞」

## ② 痛風・高尿酸血症に関する一般的研究を対象とした「研究助成」

研究助成の申請は全国医学系大学 81 校や関係研究機関などに対しての応募要項の送付、財団ホームページや医学関係の新聞や雑誌などへの掲載を実施し、9 月 1 日から 10 月 31 日まで応募を受け付けた。この結果、令和元年度の応募総数は 38 件であった。

選考は理事長より委嘱され理事会で選任された各専門分野の選考委員と理事長の 7 名で応募書類を事前に審査し、その結果を参考として 12 月 10 日開催の選考委員会で審議を行った。

1. 岩崎 甫 山梨大学 副学長
2. 鎌谷 直之 痛風・尿酸財団 理事長  
ステージン医療人工知能研究所長
3. 斎藤 加代子 東京女子医科大学 特任教授
4. 佐野 元昭 慶応義塾大学医学部 特任教授
5. 細谷 龍男 東京慈恵会医科大学 名誉教授
6. 森崎 隆幸 東京大学医科学研究所 特任教授
7. 山田 裕一 相山女学園大学

審議の結果、令和元年度研究助成対象者は以下の通り決定した。

- ① 痛風・尿酸財団賞 1 名 助成金額 100 万円
- ② 研究助成 13 名 助成金総額 500 万円

## 2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

### ① 第 30 回痛風・尿酸研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象に、痛風・尿酸研修会を 9 月 8 日(日)に東京慈恵会医科大学の講堂で開催した。

痛風協力医療機関への案内やホームページなどによる情宣を通じて参加者を募り、医療関係者など 157 名の参加があった。

高尿酸血症や痛風の診断及び治療方法そして最新の研究成果などについて、講義と活発な質疑応答が行われた。研修プログラムと講師は下記の通り。

★第1部 講演

◇ 関節液の鏡検からわかること

横川 直人 東京都立多摩総合医療センター  
リウマチ膠原病科 医長

◇ 尿酸と遺伝子

松尾 洋考 防衛医科大学校 准教授

★ランチョンセミナー

◇ 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第3版から  
尿酸降下薬の心腎保護を考える

久留 一郎 鳥取大学大学院医学系研究科  
再生医療学分野 教授

★第2部 講演

◇ 『尿酸と尿路結石』 ～再発予防に向けて～

金子 希代子 帝京大学薬学部臨床分析学研究室 教授

◇ 地域住民健診と高尿酸血症

今田 恒夫 山形大学公衆衛生学衛生学講座 教授

◇ 高尿酸血症が心腎血管代謝疾患に及ぼす影響の解明

桑原 政成 虎の門病院集中治療科・循環器センター 内科医長

★第3部 質疑応答

回答者 藤森 新 帝京大学医学部附属新宿クリニック 院長  
山中 寿 山王メディカルセンター 副院長  
リウマチ・膠原病センター長  
藏城 雅文 大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 講師

尚、令和2年度の第31回痛風・尿酸研修会は9月13日(日)に東京慈恵会医科大学で開催の予定。

② 痛風協力医療機関推薦

痛風・尿酸研修会に参加の医療機関から新たに1機関を推薦した。  
この結果、3月末現在の痛風協力医療機関は合計125機関となった。

【新規医療機関】

乾小児科内科医院 (乾 恵輔 先生) 群馬県高崎市宮元町 207

### 3. 啓発事業

#### ① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は財団名に尿酸を加えた事やスマートフォンからのアクセスが可能になった事もあり年間 352 万件となった。患者や家族のみならず一般の方々に対しても有効な情報伝達手段として定着したと思われる。この為、その内容も更に充実すべく適宜更新しながら、痛風や高尿酸血症などについての最新知識や診療機関の情報を掲載し便宜に供してゆきたい。

#### ② 患者や家族などから質問への対応

メールや電話などでの質問に対しては、診療機関の紹介依頼には痛風協力医療機関を紹介し、その他発作時の対処方法や食事に関する事などは専門医師などに問い合わせその回答内容を伝えている。

#### ③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」を全国の協力医療機関などを通じて患者に配布を行っている。

会報については8月に(第89号)と1月に(第90号)を発行した。

第89号では痛風財団賞を受賞した桑原政成先生の「痛風財団賞を受賞して」と題する研究の背景やその後の進展状況に関する一文を掲載し、第90号では財団役員各位からの寄稿文を掲載した。

### Ⅲ, 会員の現況 (令和2年3月31日現在)

個人賛助会員	105人
団体賛助会員	10団体
特別賛助会員	8団体